

3 常任委員会

「調査研究のまとめ」から

平成29年度においても、各常任委員会の所管ごとに課題を見定め、その解決の糸口を見出し「町執行部に対する要望」として取りまとめました。去る平成30年3月26日、町政3分野に

町への「要望」につなげる

すために、先進地への視察研修を行ないました。さらに今回は、「議長に対する報告」にとどめず、係る5点の要望を訴え、速やかな対応と、その経過報告をお願いしました。

総務常任委員会

研究テーマ シティプロモーション



日 時 平成30年1月25日(木)～26日(金)
場 所 栃木県鹿沼市
出席委員 松葉幸雄 委員長 笠原規弘 副委員長
戸口 勝・松本修三・宮澤幹雄・田中照子 各委員

【調査研究のまとめ】

鹿沼市は、「鹿沼シティプロモーション」を策定し、市の魅力を全国・世界に発信することで「注目され・選ばれる」自治体に進化することを目指している。元来、特産品や伝統行事等が数多く存在し、市へのイメージが分散していた中、あえて「いちご」をシンボル・フラッグシップ（最重要商品）に選択することで、イメージアップと定着化を図った。あわせて、「いちごいちえ（一期一会）」のキャッチコピーを用いた「PR戦略」や「セールス戦略」が展開されている。今視察を通じて、移住人口の獲得には「まず知ってもらうこと」と再認識した。また、鹿沼市と同様に、戦略的なシティプロモーションを充実させ、多くの方々に対して「小川町」を発信してもらいたいと願っている。さらには、「移住サポートセンター」等との連携から、移住・定住につながる取り組みに期待するものである。

経済建設常任委員会

研究テーマ まちづくりと公共交通活性化



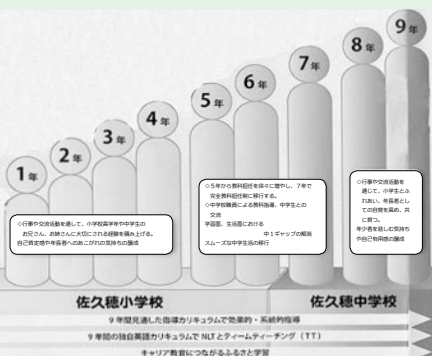
日 時 平成29年11月6日(月)～7日(火)
場 所 新潟県見附市
出席委員 井口亮一 委員長 柴崎 勝 副委員長
山口勝士・大戸久一 各委員

【調査研究のまとめ】

見附市では、自律的に「歩く」を基本とした「健康（けんこう）なまち」をコンセプトに、高齢化・人口減少が進む中であっても、地域活性化に貢献することと、持続可能な先進予防型社会の構築を目指している。また、「地域公共交通と一体的なまちづくり」の観点に基づき、路線バス（広域）・コミュニティバス（市街地）・デマンドタクシー（郊外）・コミュニティワゴン（地域コミュニティ）をバランスよく配備しながらも、過度な車依存ではなく、歩いて健康になる誘導策や、地域コミュニティの再編・にぎわいの創出等にもつながる仕組みが、見事に作りこまれている。そして、これらを担うリーダーの養成は、各行政区に配された担当職員により、力強く進められ地域を元気にしている。当町においても、今後進められるまちづくりの施策展開にあつては、多くの課題を一体的に捉え、所管を超えた総力の体制で取り組む必要性を感じたところである。

厚生文教常任委員会

研究テーマ 少子社会における特色ある教育環境



日 時 平成29年11月15日(水)～16日(木)
場 所 長野県佐久穂町立佐久穂小学校・佐久穂中学校
長野県中野市
出席委員 島崎隆夫 委員長 高瀬 勉 副委員長
根岸成美・笠原 武・高橋さゆり 各委員

【調査研究のまとめ】

佐久穂町では、「小中一貫教育」「英語教育」「キャリア教育（ふるさと学習）」の3本の柱からなる独自の「佐久穂教育」が実践され、自然豊かな当地の環境を生かした「森林体験学習」等、特色ある教育が進められている。次の中野市では、当初示した小・中学校に係る統廃合の基本方針が、特に廃する学校の地区住民から反発を受けて、見直しを余儀なくされた。その背景として、合併における旧市町間のわだかまりや、古くから根付くそれぞれの地域感情がハードルになったとのことである。当町も、約60年前に合併して誕生した町であり、いまだに旧町村単位の地区割りが色濃く残る。今後、仮に町立学校の統廃合が進む場合にあっては、同様の課題が起こることも想定される。今視察テーマにある独自の特色ある教育を配し、小中学校に係る適正規模の研究等について、スピード感をもった対応を望むものである。

町長に要望書を提出！



松本議長と3常任委員長から力強く要望書が手渡されました。

要望書

- 要望1** シティプロモーション事業を早急に立ち上げ、アクションプランを策定し、「移住・定住」へと導くこと
- 要望2** 人や企業に対する当町の魅力的なイメージの確立と発信をすること
- 要望3** 行政区担当職員制を導入し、行政区ごとに担当職員を配置すること
- 要望4** 学校の再編成を考える中では、義務教育学校を含めて、小中一貫校の検討をすること
- 要望5** 将来を担う人材を育てるために、町独自の特色ある教育を検討すること